

文部科学省EDU-Portニッポン調査研究「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」
報告会

エジプトのTokkatsuは日本の 学校教育に何を投げかけているか

令和7年2月1日（土）
帝京大学教育学部 安部 恭子

日本の学校教育と 教育課程における特別活動の意義

1 日本の学校教育

・「知・徳・体にわたる『全人的な教育』」

「『生きる力』を育む」 (平成8年中央教育審議会答申)

・これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。(平成29年改訂 学習指導要領前文)

・個別最適な学び(指導の個別化と学習の個性化)と協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

「協働的な学び」は、同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他の学校の子供との学び合いなども含むものである。**知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」のよさを生かし**、学校行事や児童会(生徒会)活動等を含め学校における様々な活動の中で異学

生きる力をはぐくむー日本型学校教育ー

21世紀を展望した我が国の教育の在り方について
ー子供に「生きる力」と「ゆとり」をー

(中央教育審議会 第一次答申) 平成8年7月19日

生きる力

知

自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、
主体的に判断し、行動し、
よりよく問題を解決する資質や能力

徳

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を
思いやる心や感動する心など、豊かな人間性

体

たくましく生きるための健康や体力

知・徳・体にわたる全人的な教育

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 (イメージ)

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

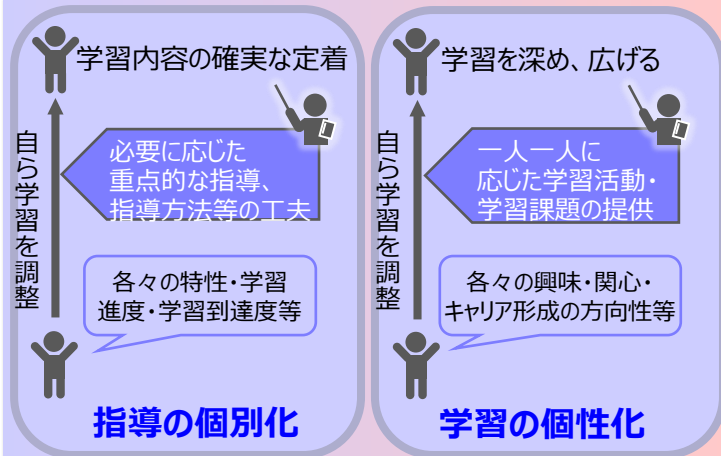
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

資質・能力の育成



個別最適な学び (教師視点では「個に応じた指導」)

習得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 ・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視の考え方を生かす

協働的な学び

・集団に対して共通に教育を行う ・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含の考え方を生かす

クラスメイト

異学年・他校の子供

地域の人

専門家

等

多様な
他者と協働

一人一人の
よい点・可能性

異なる考え方が組み合わせり
よりよい学びを生み出す

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

年間の交流の機会を充実することで、子供が自らのこれまでの成長を振り返り、将来への展望を培うとともに、**自己肯定感**を育むなどの取組も大切である。（令和3年中央教育審議会答申）

・日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「**調和と協調**」に基づく**ウェルビーイング**を教育を通じて向上させていくことが求められる。（第4期教育振興基本計画）

2 日本の学校教育における教育課程上の特別活動の意義

○学級経営の充実に資する

・学習指導要領第6(5)章特別活動 第3の(3)

「**学級活動における児童(生徒)の自発的、自治的な活動**を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童(生徒)についての理解を深め、**教師と児童(生徒)、児童(生徒)相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること**。その際、特に、**いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図る**ようにすること。」

特別活動において育成を目指す 資質・能力の三つの視点

人間関係形成

違いを認め合い、みんなと
共に生きていく力を育む

よりよい集団や社会を
つくろうとする力を育む

社会参画

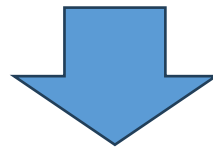
自己実現

なりたい自分に向けて
がんばる力を育む

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念



日本社会に根差したウェルビーイングの向上

教育に関するウェルビーイングの要素

自己肯定感

自己実現

心身の健康

安心安全な環境

幸福感

協働性

多様性への理解

利他性

社会貢献意識

サポートを受けられる環境

学校や地域でのつながり

子供たちの主観的なウェルビーイングに関連する項目

- 自分にはよいところがあると思う
- 将来の夢や目標を持っている
- 授業の内容がよく分かる
- 勉強は好きと思う
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになる
- 友人関係に満足している
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- 人が困っているときは進んで助けている
- 学級をよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決める
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 先生は自分のいいところを認めてくれる
- 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

○生徒指導の充実に資する

- ・学習指導要領I章総則 第4の1(2)児童(生徒)の発達の支援

「児童(生徒)が、**自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、児童(生徒)理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実に資すること**」

・教科学習でつまずきがちであったり、問題行動が見られたり特別な支援を要したりする児童生徒に対しても、自分の得意とする能力や個性などを生かすことができるように配慮し、適切に役割を担うことができるようにすることも重要である。そうすることによって、各活動・学校行事への積極的な取組を促すことが期待できる。集団生活への意欲や自信を失っている**児童生徒の自己存在感や自己有用感を高めるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自分の能力への自信を回復することが可能になる。特別活動を通して発達支持的生徒指導の充実に資することは、児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」という生徒指導の目的を達成することに直接つながるものであると言える。** (生徒指導提要)

生徒指導の実践上の視点（生徒指導提要より）

(1) 自己存在感の感受

学校生活のあらゆる場面で、「**自分も一人の人間として大切にされている**」という**自己存在感**を、児童生徒が実感できるようにする

(2) 共感的な人間関係の育成

自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる**相互扶助的**で**共感的な人間関係**をつくることができるようにする

(3) 自己決定の場の提供

自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の**体験**を重視し、**自己決定の場**を広げていく。

(4) 安全・安心な風土の醸成

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、**児童生徒自らがつくり上げる**

○キャリア教育の要である

・学習指導要領1章総則 第4の1(3)

児童(生徒)が、**学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら**、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、**特別活動を要としつつ**各教科等の特質に応じて、**キャリア教育の充実を図ること**。(その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。)

◇日本の特別活動

「なすことによって学ぶ」

「学級・学校生活や人間関係を自らよりよいものにする」

「多様な集団活動を通して、自治的能力や自己指導能力を育む」

「なりたい自分に向けて、前向きにがんばる力を育む」

◇互いを尊重する学び⇒温かい人間関係、支持的風土、共感的な土壌が基盤＝自発的、自治的な活動の充実が求められる。

3 非認知能力の育成に資する特別活動（学級活動）の実践

◇令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果から

「児童質問紙調査の結果から、育成を目指す資質・能力の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関する6項目（特別活動において得られる効力感）の質問のうち、5項目について児童の肯定的な回答（「そうしている」「どちらかといえばそうしている」）が80%を超えていることから、**特別活動への効力感が高いといえる。**」

- ① みんなで協力して活動することで、いじめのない学級や学校をつくることができる
- ② ちがいを認め合い、みんなと共に生きていく力がつく
- ③ みんなで話し合うことで、学級や学校の生活を楽しくできる
- ④ 自分のがんばりで学級や学校をよりよくすることができる
- ⑤ めあてを決めて努力することは、自分の将来に役立つ
- ⑥ 自分のよいところや得意なことを、生かしたり伸ばしたりすることができる

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（特別活動）－質問調査版－

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 育成を目指す資質・能力の視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を踏まえて目標及び内容を整理し、各活動及び学校行事で育成する資質・能力を明確化。特に自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を重視。
- 学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実を図る際に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図ることを明記。
- 学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を果たすことを明確化。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 育成を目指す資質・能力の視点の6項目の質問のうち、5項目については児童の肯定的な回答が80%を超えている。ただし、「社会参画」に関する質問の肯定的な回答は、「自分のがんばり学級や学校をよりよくすることができる」は70%程度であった。
- 学級活動に積極的に取り組んでいる児童は、自己肯定感や自己理解、協働、粘り強く取り組む態度に関する項目について肯定的な回答をする傾向が見られた。また、96%以上の教師と80%以上の児童が、特別活動について、いじめの未然防止などに役立つと感じている。しかし、自発的・自治的な活動である学級会の取組状況についての肯定的な回答は、教師が90%程度であった。対し、児童は60～70%程度であった。
- キャリア形成につながる、目標をもって実践する活動の取組について、90%以上の教師が肯定的な回答をしている。一方、「そうしている」と強く肯定する教師は30%を下回っており、他の項目と比較してやや低い傾向にある。

3. 2の調査結果を踏まえた改善の方向性

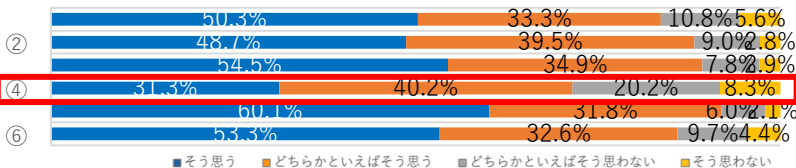
- 指導上の改善点
 - ・資質・能力の視点「社会参画」に関する課題を踏まえ、特別活動において、「自分のがんばりで学級や学校をよりよくすることができる」と実感できるように活動の充実や指導の改善を図る。
 - ・いじめの未然防止などに対して、多くの教師と児童が特別活動が役立つと感じていることから、さらなる指導の充実が求められる。
 - ・学級活動の「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の授業について、話し合いや「キャリア・パスポート」を意思決定に生かし、「自己実現」へとつなげることができるようにする。

4. 調査結果例（質問調査 小学校 特別活動）

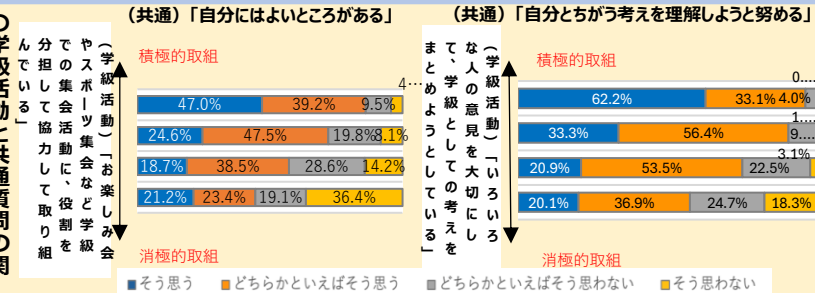
質問項目（第6学年）

○「特別活動」で育成を目指す資質・能力の視点に関する質問

- | 人間関係形成 | 社会参画 | 自己実現 |
|-----------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|
| ① みんなで協力して活動することで、いじめのない学級や学校をつくることのできる | ② ちがいを認め合い、みんなと共に生きていく力がつく | ⑤ めあてを決めて努力することは、自分の将来に役立つ |
| ③ みんなで話し合うことで、学級や学校の生活を楽しくできる | ④ 自分のがんばりで学級や学校をよりよくすることができる | ⑥ 自分のよいところや得意なことを、生かしたり伸ばしたりすることができる |

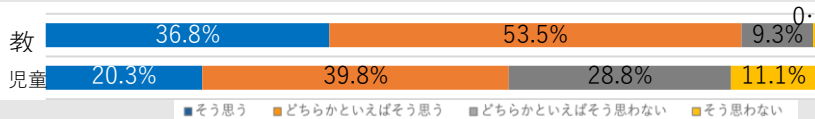


○学級活動と共通質問の関



○自発的、自治的な活動である学級会の取組に関する質問（第6学年）

教師 学級会の議題について、児童の思いや願いを生かして選定できるように指導している
児童 学級会で話し合いたいこと（議題）を見つけている

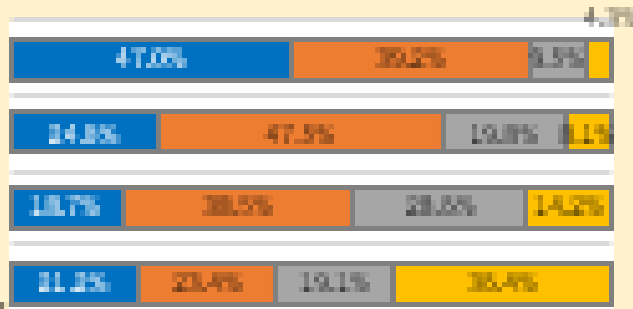


○学級活動と共通質問の関連

「学級活動」に積極的に取り組んでいる児童は、
 やスボーツ集会など学級での集まり活動に、役割を分担して協力して取り組んでいる。

(共通)「自分にはよいところがある」

積極的取組



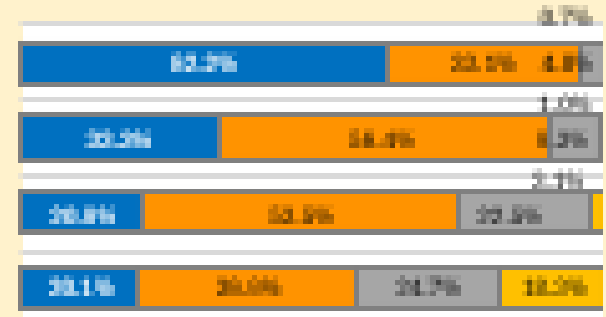
消極的取組

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

(共通)「自分と違う考えを理解しようと努める」

積極的取組

「学級活動」に積極的に取り組んでいる児童は、人の意見を大切にしながら、学級としての考えをまとめるようとしている。



消極的取組

学級活動に積極的に取り組んでいる児童は、自己肯定感や自他理解、協働、粘り強く取り組む態度に関する項目について、肯定的な回答をする傾向が見られた。

96%以上の教師と80%以上の児童が、特別活動について、いじめの未然防止などに役立つと感じている。

「学級活動に積極的に取り組んでいる児童は、自己肯定感や自他理解、協働、粘り強く取り組む態度に関する項目について肯定的な回答をする傾向が見られた。また、96%以上の教師と80%以上の児童が、特別活動について、いじめの未然防止などに役立つと感じている。」

◇令和5年度「学力調査を活用した全問的な課題分析に関する調査研究」の結果から

- ・児童の主体的・対話的で深い学びに係る設問と自己有用感に関する項目で相関が見られた。

- ・児童の「主体的・対話的で深い学び」「学級活動」に係る取組状況と、自己有用感等（特に「人が困っているとき進んで助けている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」）の間には正の相関が見られる。など

非認知能力を育む特別活動 ～全国学力・学習状況調査の結果を活用した 専門的な分析から～

報告書【概要版】

令和5年度「学力調査を活用した専門
的な課題分析に関する調査研究」

調査研究テーマC

「令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問
紙調査（うち、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、
幸福感等）の結果を活用した専門的な分析」

2024年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

世界が進むチカラになる。



1. 児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との関係性の分析

児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5小学校）

ポイント：児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」(特に「人が困っているとき進んで助けている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」)の間には正の相関が見られる

- 児童の取組状況と自己有用感等との相関を確認すると、カテゴリ2「自己有用感等」の質問項目ごとに傾向の違いが確認される
 - カテゴリ7「主・対・深」やカテゴリ8「総合・学活・道徳」は、質問項目全般において、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の間の正の相関が相対的に高い傾向がある
 - 質問7「将来の夢や目標を持っている」や質問9「いじめはいけなことだと思う」などの相関は低い傾向がある（ただし、例えば質問9は小中とも80%以上が「当てはまる」と回答しているなど回答の分散が小さい（回答のばらつきが少ない）点に留意が必要）
 - 質問12「学校に行くのが楽しい」についても、一定の相関が確認される
- 一方で、カテゴリ7・8の質問項目のなかで、特定の質問項目が児童の自己有用感等と強い相関があるような関係は見られない
 - 質問32「授業で工夫して発表していた」は相対的にカテゴリ2の質問項目との相関がやや低い傾向がある

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	回答の平均	回答の分散
カテゴリ7	32	0.277	0.217	0.149	0.161	0.269	0.080	0.199	0.217	0.204	0.339	0.098	0.174	2.81	0.87
	33	0.319	0.284	0.238	0.184	0.345	0.169	0.255	0.312	0.294	0.429	0.156	0.229	3.06	0.62
	34	0.294	0.274	0.231	0.180	0.326	0.160	0.248	0.294	0.275	0.414	0.147	0.221	2.98	0.68
	35	0.268	0.332	0.337	0.148	0.262	0.213	0.282	0.291	0.353	0.358	0.223	0.272	3.16	0.63
	36	0.320	0.291	0.241	0.179	0.334	0.159	0.282	0.299	0.327	0.402	0.268	0.293	3.18	0.63
	37	0.293	0.283	0.273	0.174	0.322	0.186	0.276	0.304	0.299	0.413	0.173	0.239	3.04	0.66
	38	0.287	0.269	0.242	0.171	0.311	0.170	0.245	0.304	0.284	0.391	0.161	0.224	3.17	0.66
カテゴリ8	39	0.280	0.259	0.203	0.177	0.292	0.142	0.226	0.264	0.252	0.360	0.132	0.203	3.02	0.72
	40	0.230	0.287	0.266	0.140	0.269	0.163	0.229	0.249	0.258	0.315	0.172	0.216	3.04	0.70
	41	0.282	0.285	0.255	0.210	0.361	0.193	0.263	0.318	0.290	0.378	0.177	0.236	3.01	0.70
	42	0.270	0.285	0.254	0.178	0.323	0.191	0.241	0.297	0.283	0.347	0.177	0.239	3.24	0.66
回答の平均		3.21	3.37	3.52	3.34	3.36	3.79	2.92	3.70	3.31	3.04	3.51	3.40		
回答の分散		0.70	0.53	0.45	0.92	0.45	0.26	0.95	0.34	0.69	0.71	0.54	0.46		

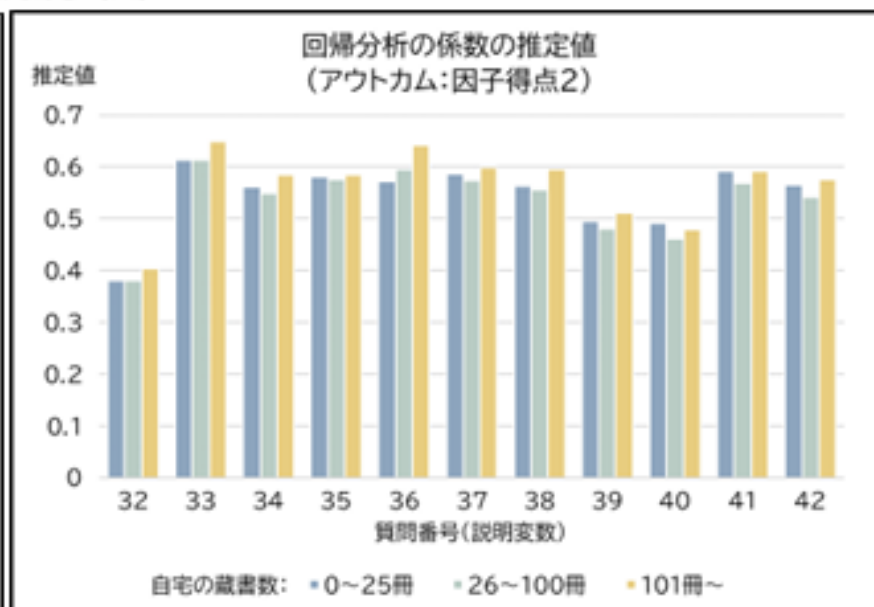
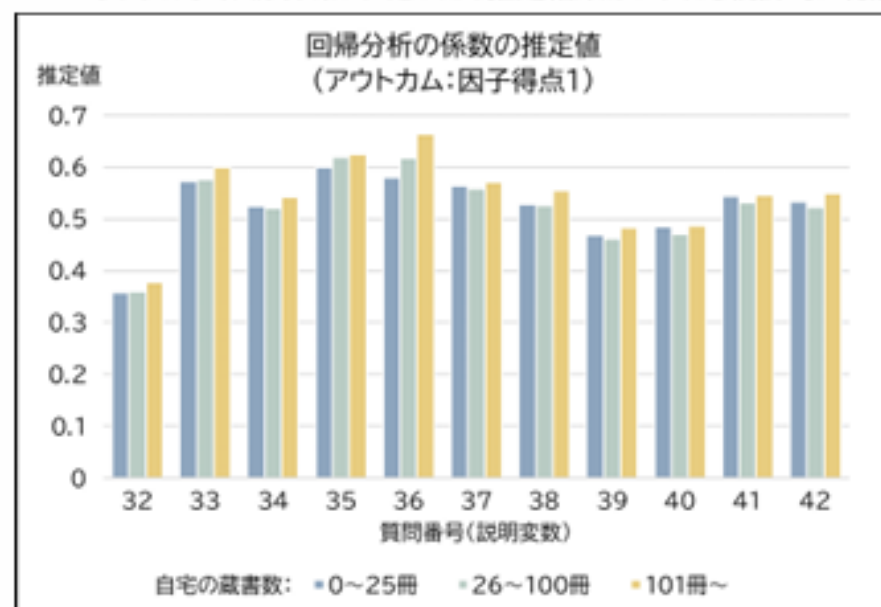
2. SESや学力を統制した分析

SESによる層別の回帰分析（R5小学校）

ポイント：SES（自宅の蔵書数）の水準に関わらず、「主・対・深」や「総合・学活・道徳」は有効な可能性

- SES（自宅の蔵書数）の水準でサンプルを分割したうえで、回帰分析を実施した
 - 都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別をコントロールしている
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問32への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3～0.4標準偏差程度上昇することがわかる
- 自宅の蔵書数による推定値の多少の変動はみられるものの、基本的にどの層に対しても推定値は比較的高い値を示している
 - 「主・対・深」や「総合・学活・道徳」は、児童のSESの水準に関わらず比較的有效である可能性が示唆される
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）

因子得点1・因子得点2については、スライド9を参照



※いずれもp値≒0となっている

日本の学校教育と エジプトのTokkatsu

4 日本の学校教育とエジプトのTokkatsuの比較

○エジプトにおけるTokkatsuの目的

自分自身の課題、学級や学校の課題を特定し、児童生徒が個人で自ら、または、集団で自らそれを解決する活動。それにより、よりよい学級生活と学校生活が作り出され、児童生徒が学校に帰属感を得ることをが期待される。

←	日本←	エジプトにおける Tokkatsu←
導入←	昭和 33 年に教育課程に位置付けられる←	2015 年からプレパイロット校の取組がスタート←
教科書←	参考資料として、文部科学省国立教育政策研究所が指導資料や評価資料、映像資料を作成←	「学びの質向上のための環境整備プロジェクト『特活プラス導入マニュアル』」を作成←
対象←	全小・中学校←	プレパイロット校、パイロット校から徐々に広げ、EJS51校← そして全国に導入←
授業形態←	学級担任、題材により TT←	TT (主にアラビア語の教師が T1) ←
研修←	教育委員会主催の研修会 (年次研修、特活主任会など)、教育研究会主催の研修会 など←	Tokkatsu オフィサーだけでなく、指導する教師すべてが研修を受ける←
指導者←	各都道府県等において、特別活動専任の指導主事は少ない←	Tokkatsu の指導主事の認証制度に基づき、指導者が任命されている←
スーパーバイザー←	←	EJS において、校長の学校経営や Tokkatsu 実践に係るアドバイスを行う←

5 エジプトのTokkatsuが日本の学校教育に投げかけているもの

⇒日本の特別活動の意義や価値を改めて認識することにつながる

- ・全人教育
- ・自己有用感や自己実現、協働性、利他性などの非認知能力の育成に資する
- ・自治的能力や自己指導能力の育成
- ・学級経営や生徒指導に資する
- ・主権者意識の向上
- ・キャリア教育の要



「日本の学校教育や特別活動の課題」を明らかにするものでもあるのではないか

◇エジプトのTokkatsu

- ・特別活動を現地化し、Tokkatsuとして充実
- ・Tokkatsuにおける基礎・基本の共通理解・共通指導
- ・TO、指導主事といったTokkatsu専門の指導者や指導主事の任用
 - ⇔「こうでなければならない」というTOの意識の変容
- ・学校経営やTokkatsuの充実に貢献するスーパーバイザーの任用
- ・学級会、学級指導、日直の実践⇒朝の会や児童会活動、学校行事へと活動が広がり、取組が充実
 - =活躍の場、自他のよさに気付く機会の充実
- ・児童の変容⇒教師、保護者の意識が変容
- ・Tokkatsuの取組を貧困対策に生かす



エジプトのTokkatsuの充実⇒非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に生かす